

姫路城・柳田国男館 バス旅行の感想

16B 班 染村 満千子

このたび、大阪府高齢者大学同窓会高槻の「姫路バス旅行」に初めて参加させていただきました。先ずはお元気な皆様方とお会いできましたことは、私にとりましてとても懐かしくそしてこの上もない喜びでした。

姫路城は以前 2 回程訪ねたことはありましたが、5 年の歳月をかけてリニューアルされた文字通り華麗な白鷺の姿には感動するばかりでした。

特に昨年放映された NHK の大河ドラマ「黒田官兵衛」に重ね合わせて、ガイドさんの名調子に、戦国時代の様子が宛（さなが）らに老化した脳裏をかすめた思いがいたしました。

ただ、地階から 6 階までの階段の上がり下りには、ほとんど閉口してしまいました。年齢を重ねるにつけ「やりたいこと」と「やれること」の違いを大いに思い知らされた始末でした。これからは何事も全てに頑張りすぎずに、できるかどうかは分かりませんが「ほどほどが肝心」と心得て過ごしてまいりたいと思います。

皆さんにご迷惑をおかけしてしまったのではないかと、申し訳なく思っております。それにしましても、素晴らしい皆さん方と何物にも代えがたいかけがえのない貴重なひとときを過ごさせて頂きまして、本当にありがとうございました。

以上



広報 IT 部から

当日は担当幹事のご尽力で 47 名の参加があり、中途から雨になりましたが無事観光を終えました。

戦国時代後期から安土桃山時代にかけて、黒田氏や羽柴氏が城代になると、山陽道上の交通の要衝・姫路に置かれた姫路城は本格的な城郭に拡張され、関ヶ原の戦いの後に城主となった池田輝政によって今日見られる大規模な城郭へとさらに拡張された。大天守の保存修理工事を終え、3月27日（金）グランドオープン。大天守の一般公開を再開した。白く美しい白鷺の城・姫路城は日本を代表する名城です。



柳田 國男は、現在の兵庫県神崎郡福崎町生まれで、最晩年に名誉町民第 1 号となった。「日本人とは何か」その答えを求め、日本列島各地や当時の日本領の外地を調査旅行し、初期は山の生活に着目し、『遠野物語』で「願わくは之を語りて平地人を戦慄せしめよ」と述べた。

日本民俗学の開拓者で、多数の著作は今日まで重版され続けています。